

第28回全国大会が大分で盛大に開催されました！

7月17日～18日第28回全国M式水耕技術研究大会が約80名の参加のもと大分市で開催されました。「自らの行動で問題解決を目指していく」のテーマのもと、両日に渡っての勉強と全国の仲間との話しに刺激を受け、新たな意欲を帰ち帰られたのではないのでしょうか。

大会は、石川全国M式研究会会長、来賓代表野村常務(東海物産)挨拶に始まり、表彰団体となった玉城ふれあい農園からは、いちご観光農園での事例、高橋カントリー農園からは、ピーマンでの事業展開など、興味深い発表、今年3月発足した「全国水耕みつば生産者振興会」の吉川会長から組織紹介を、M式水耕から熱殺菌、炭化装置などの近況報告が村井専務からなど分刻みで進められました。講演は、病害虫対策では第1人者と定評のある大阪府立農林技術センター草刈眞一氏をお招きし「水耕における病気対策のやり方」と題して判りやすい解説、質疑を展開していただき好評でした。また、大塚化学岡氏から「アミノ酸入り肥料の活用事例」も、付加価値生産の手法として参考になったとの声でした。会議終了後は、懇親会で交流の輪を広げ、さらには別府の湯にゆっくりとつかり(中には朝帰り組も)英気を養いました。

翌18日は、大分市農協みつば部会嶺団地と日本最大規模の植物工場スウェデボニック久住の二ヶ所を見学。嶺団地は雨水再利用、育苗専用ハウスなどに、久住は、こんな生産形態もあるのかと興味を引かれた様子、また来年の再会を約束して散会となりました。

(実行委員長神谷高裕)



石川会長

東物野村常務



玉城ふれあい農園

高橋カントリー農園

振興会吉川会長

M式村井専務



草刈講師

大塚岡講師



懇親会風景

<p>大分市農協みつば部会(嶺支部) 大分市大字上戸次5458、5生産者で、5,200坪約7億の事業費で平成10年完成、みつば単品生産している。</p>	<p>スウェデボニック久住 大分県直入郡久住町、スウェーデンからのプラント輸入の植物工場、ポット付ハーブを主体に3,000坪で栽培している。</p>
--	--

